

令和4年度 第3回社会教育委員会議資料

「地域学校協働活動について」

令和4年12月19日（月）

午後3時～午後4時30分

和光市役所6階 602会議室

1 地域学校協働活動について

「これからの学校と地域～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動～」

文部科学省資料 別冊子

2 コミュニティ・スクールチーフディレクター（CS チーフディレクター）の活動

(1) 選任

- ① 各学校より推薦された CS ディレクターのなかから、中学校区毎に選任されている。
- ② 各中学校区の地域学校協働本部の代表者（本部長）であり、和光市全体で3名である。
- ③ 和光市では、地域学校協働活動推進員を兼ねている。

(2) 活動

- ① 公民館を拠点として、週2日程度、1日につき2時間程度、活動をしている。
- ② ひと月の活動時間は、12時間～26時間の実績となっている。

(3) 内容

学校依頼の確認、学校と支援者への連絡、関係者との打合せ、報告書の作成
学校支援活動の確認、各組織・団体との連携、公民館長（職員）との連携 等

3 地域学校協働本部の構成

【構成】

	大和中学校区	第二中学校区	第三中学校区
拠点公民館名	坂下公民館	中央公民館	南公民館
関係小・中学校名	白子小学校 新倉小学校 北原小学校 下新倉小学校 大和中学校	第三小学校 広沢小学校 本町小学校 第二中学校	第四小学校 第五小学校 第三中学校
CS チーフディレクター数	1	1	1
CS ディレクター数	4	3	2
地域ディレクター数	3	4	3
地域連携担当教職員	5	4	3
その他	本部長（CS チーフディレクター）は、構成員以外の学校関係者等に対し、会議への出席、資料の提出、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。 「和光市立小・中学校地域学校協働本部設置要綱第5条2」		

※数字は人数を示す。地域学校協働本部の構成員

【CS ディレクター】

- (1) CS チーフディレクターは、各校の CS ディレクターのなかから選任される。
- (2) CS ディレクターは、各学校の運営協議会委員から1名推薦される。
- (3) 各学校の運営協議会は12名以内の委員で構成される。

学校運営協議会委員は、学校長の推薦をもとに、教育委員会（学校教育課）が委嘱している。

【地域コーディネーター】

- (1) 地域コーディネーターは、各学校の学校運営協議会委員から1名推薦される。
- (2) 地域コーディネーター数の違いは、学校の推薦状況による。
- (3) 令和4年度は、CS ディレクターとの兼任者もいる。

【地域連携担当教職員】

- (1) 地域連携担当教職員は、各校から1名選出される。
学級担任、事務職員、教務主任、主幹教諭等、学校ごとに立場は異なる。
- (2) 地域学校協働本部の活動に参加するだけでなく、各学校で地域との連携の中核を担っている。

4 地域学校協働本部推進会議

(1) 構成者

CS ディレクター、地域コーディネーター、地域連携担当教職員

(2) 実績

	中学校区名	場所	期日	参加依頼者
第1回	大和中学校区	坂下公民館	7月 8日 (金)	公民館長 学校長
	第二中学校区	市役所	6月23日 (木)	公民館長 学校長
	第三中学校区	南公民館	7月 5日 (火)	公民館長 学校長
第2回	大和中学校区	坂下公民館	12月 6日 (火)	公民館長 学校長
	第二中学校区	中央公民館	11月29日 (火)	公民館長 学校長
	第三中学校区	南公民館	12月 7日 (水)	公民館長 学校長

※基本として、地域学校協働本部の拠点となる公民館で開催する。

(3) 内容

【第1回】

- ・設置後、初の会議でもあることから、学校長、公民館長に出席を依頼した。
- ・CS チーフディレクターの紹介、地域学校協働本部の構成者の確認をした。
- ・中学校区の地域学校協働活動の目標やビジョンについて理解を深めた。
- ・各学校のこれまでの地域との連携の状況、コロナ禍での状況等を共通理解した。
- ・今後の各学校の計画を確認した。

【第2回】

- ・これまで5か月間の地域学校協働本部の取組について相互理解を図った。
- ・公民館を拠点とする地域学校協働活動について、協議をした。
特に、学校の教育課程内で実施することは難しいが、公民館を拠点とする社会教育の視点から地域が主体となり、児童生徒等を育む事業について意見交換を行った。
- ・今後の各学校の計画を確認した。

5 各中学校区の地域学校協働本部打合せ

(1) ねらい

- ・CS ディレクター、地域コーディネーター等地域関係者が集まり、中学校区として、緩やかなつながりづくりを進める。
- ・中学校区の人材、組織、団体等について共通理解を図り、地域学校協働活動の支援者を確認する。
- ・各学校の状況を把握するとともに、学校支援等について意見交換を行い、支援策の具現化を進める。

(2) 実績

中学校区名	場所	期日	主な内容	参加者数
大和中学校区	坂下公民館	7月26日	・活動の方向性	4
		7月28日	・人材リスト作成	4
		8月31日	・学校支援の項目	7
		9月30日	・クラブ活動、面接練習支援	8
		10月28日	・授業支援、放課後学習支援	8
第二中学校区	中央公民館	7月7日	・講演会、体験イベント	9
		9月13日	・取組の振り返り	7
		10月13日	・読み聞かせ等学習支援	8
第三中学校区	南公民館	8月23日	・学校支援の方向性	5
		9月7日	・学校からの依頼	5
		9月26日	・環境整備と学習支援	6
		10月20日	・環境整備、地域の学習支援	7
		11月11日	・学習支援、児童生徒の見守り	8

(3) 成果

- ・地域学校協働本部の活動について、関係者の理解を深めることができた。
- ・関係する学校の状況だけでなく、中学校区の状況を把握することができるようになった。
- ・関係者のつながりが深まり、互いの立場を理解しながら、協議をすすめることができた。
- ・新たに人とのつながりづくりが進められた。
- ・子供たちのために活動されている組織等の取組が共有され、活動支援について協議が進められた。

(4) 今後の見通し

- ・当分の間は、地域学校協働本部の打合せに協力していただき、地域学校協働本部やCS チーフディレクターの活動にお力添えをいただく。
- ・できる時にできる範囲での協力をお願いする。

6 各中学校区のこれまでの取組（別添 資料参照）

(1) 活動紹介

① 大和中学校区

② 第二中学校区

③ 第三中学校区

(2) 取組について

- ① 導入、初年度であり、また、年度途中の組織設置であることから、「できることから少しずつ」活動を始めることを確認した。
- ② 学校支援を活動のメインとして、学校からの依頼に順次応えていく方向性を確認した。
- ③ 地域学校協働本部打合せを設け、地域関係者の共通理解を進めてきた。
- ④ 同じ中学校区のなかの学校でも、学校は歴史や地域背景が異なっている。地域性を踏まえ、学校ごとに支援を推進している。
- ⑤ 地域学校協働本部打合せに参加しているCSディレクターに、地域学校協働本部の活動を各学校の学校運営協議会にて案内するように依頼している。地域学校協働本部の活動を学校運営協議会委員に理解していただくよう努めている。
- ⑥ 「この活動は、地域でどのような子供たちを育てることにつながるのか」という視点を確認しながら、学校の願いと地域の願いを結び付け、目標やビジョンを少しずつ形作るように進めている。
- ⑦ 地域学校協働本部の活動を周知するため、各団体、組織等とのつながりつくりを努めている。

(3) 成果

- ① 地域学校協働本部や地域学校協働活動について、理解を深め、活動できるようになった。
- ② これまでのつながりを生かしながら、中学校区の関係団体・組織に関わることをとおして、中心者として、学校支援を進めることができた。
- ③ 地域学校協働本部打合せ等を通して、新たに、地域での人と人とのつながりづくり、ネットワークづくりを進めることができた。
- ④ 公民館を拠点とする活動団体の活動や市の社会教育の内容を理解し、自ら関わることもできるようになった。
- ⑤ 学校管理職や地域連携担当教員との連携を深めることができた。
- ⑥ 学校の教育活動等をより理解し、児童生徒の成長を支える具体策を実施することができた。
- ⑦ これまで学校支援を進めてきた組織が、コロナ禍により活動がしにくい状況となっている。組織のねらいを地域学校協働本部で共有することを通して、活動支

援に取り組むことができた。

- ⑧ 学校が支援者を受け入れるため柔軟に対応する姿勢がみられた。

(4) 課題

① 全般

- ・導入初年度であることから、学校からの依頼内容や依頼時期に急遽、対応している。
- ・児童生徒が在籍する時間帯は、地域連携担当職員との連絡調整が難しい。
- ・現在はメールの送受信環境が整っていないために、学校の依頼書や連絡が事務局である生涯学習課を通して進められている。活動環境の整備が必要である。また、学校との連絡調整について、検討していく。

② 学校支援について

- ・学校の地域に対する思いと学校支援者の思いの調整が必要である。
- ・学校の計画と学校支援者の日程調整が難しい。
- ・地域人材の掘り起こしのためのつながりづくりに努める必要がある。
- ・地域学校協働本部の役割や活動について、周知し、つながりを生かしながら、更に、協力者の輪を広げていくことが必要である。
- ・学校支援活動の内容に伴う学校支援者の研修を徐々に進める必要がある。

7 地域学校協働本部との連携・協働を進める公民館

(1) 成果

① 公民館職員の意識改革と学校との連携が進められている。

- ・公民館職員が地域学校協働活動の必要性を理解し、公民館を拠点とする和光市独自の取組を推進する心構えを持つようになった。
- ・地域の学習拠点である公民館の役割を捉え直すとともに、学校との連携を図り、相互理解と協働のもと、地域の教育活動の活性化について検討することが進められてきた。

② 具体的な取組

- ・学校運営協議会委員としてコミュニティ・スクール運営に参加
- ・学校の依頼により、学校応援団募集チラシを公民館活動団体に配布
- ・公民館まつり（文化祭）での学校紹介（パネル紹介、学校だより等紹介）の実施
- ・公民館まつりにて中学校美術部作品展示
- ・公民館長、職員による公民館活動団体の紹介
- ・児童の公民館見学の受入
- ・児童の公民館見学の際、利用団体の活動を紹介し、交流機会設定
- ・公民館の会議室等を利用した児童生徒の学習支援計画

(2) 今後の見通し

① 地域学校協働本部の周知に協力する。

② 学校の思いを踏まえた公民館事業を企画する。

③ 地域学校協働活動を通じて、地域の願いを把握し、事業計画に反映させる。